

むかしの川は あばれ川

川の流ながれは 変かわつたそうな
大雨降ふるたび かわつたそうな

豊とよの里の中ほどに ぽつんと小高い岡山一つ
山の起おこ源は知る由よしないが 川の流ながれを変かえたと言いつ
武生ぶせいの方かたから豊とよの方かたへ 流ながれ流ながれた川の水
岡山おかやまの岩いわにぶち当たり 二つに分わかれて右、左
気きままに 気きままに流ながれたと

岡山おかやまの西にしを流ながれた大川おほがわに
水みづが運はこんで出で来た島しま 中なかの島しまがあつたと言いつ
よほど大おほきな島しまだつたのか 人ひとが生せい活かつし
きつねや たぬぎや 鳥とりたちも住すんでいたそうな
中なかの島しまにあつた家いへと言いつこと 人ひとは今いまでも
笠原源左衛門かさはらげんざゑもんさんさんの家いへを「中島なかしまはん」と呼よんでい

大雨降ふれば あばれ出いす

岡山おかやまの東ひがしを流ながれた洪水こうすいは 上かみ・下した氏家うぢいけをひと呑のみに
二丁掛にちやうかけの方かたへ流ながれたと

田いねんぼや畑はたけは湖うみに 鯉こいや緋鯉ひこいが泳およいだと

岡山おかやまの西にしを流ながれた洪水こうすいは 上かみ・下した野田ののをひと呑のみに
和わ田だの岩立山いわたけやまにぶつかつて

西大井にしのおおい 冬島ふゆしまの方かたへ流ながれたと

折角せちかく作つくつた野菜やさいや穀物こくぶつ 時ときには人ひとや家いへまで流ながしたと

むかしの川がわの大おほあばれ 大雨降ふつて洪水こうすいが

岩いわや土砂どさを運はこんで山やまづくり たつたの日ひ中で山やまづくり
いつもことかかはしる由よしないが

和わ田だの里さとの中なかほどに 突とつ然ぜんできたと言いつ山 日中山ひちやま

むかしの川がわの大おほあばれ 康安元年こうあんげん六月十八日むつきじゅうはちにち巳みの刻とき
地震じしんが起おこきたその後のちに 大雨降ふつて洪水こうすいが

御板部郷みいたべこうの岸村かむらと志摩村しまむらの 二つの村むらを流ながしたと

明治二十九年 六月四日 午前十時

大雨降つて洪水が 鳥井の田畑をえぐり取り

大水引いたその後、突然できた溜池二つ

蓮の花が咲いたと言う ひしの実が採れたと言う

日照りが続けば 水なし川に

田んぼも畑も干せあがり 地面が大きくひび割れた

人は 天に向つて雨乞いまつり

雨が降ればよいものを 草木が枯れて飲み水渴れて

天明 天保の大飢きん 餓死した人が道端に

青溜 赤溜 溜池づくり 小高い所に溜池づくり

日照りが続けば水流す 水なし川に水流す

多くの人が泣かされた 気ままな川に堤防作り

水の調節考えて 豊かな地区に豊かな実り

あばれ川との戦いは 遠いむかしの物がたり

